

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	平成19年度予算(当初)
水産試験場運営費	30,399千円
試験研究調査費	20,266
(アユの冷水病対策研究費)	(6,150)
(琵琶湖生態系修復総合対策研究費)	(7,330)
(琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究費)	(2,000)
(増養殖技術研究費)	(2,050)
(漁況予報調査研究費)	(1,687)
(漁場環境調査研究費)	(1,049)
水産技術普及指導費	155
養鱒場運営費	5,109
養鱒事業費	78,900
調査指導費	3,000
職員費	211,861
計	349,600千円

水産課計上分

事業名	平成19年度予算(当初)
水産基盤整備事業費	697千円
栽培漁業総合推進事業費	1,552
漁場環境保全対策事業費	923
水産有害生物対策事業費	2,000
(オオクチバス等外来魚撲滅対策研究費)	(2,000)
養殖漁業振興事業費	4,912
流通加工対策費	1,000
冷水病保菌検査の促進	(1,000)
湖辺のにぎわい復活事業	11,832
湖沼の漁場改善技術開発事業	(9,832)
コイ資源減少対策研究	(2,000)
ホンモロコ資源緊急回復対策事業	9,700
計	32,616千円

水政課計上分

事業名	平成19年度予算
内湖再生検討事業	1,500千円

平成 19 年 度 主 要 事 業 一 覧

事 業 名	事 業 概 要
冷水病対策技術開発研究	天然水域や養殖場においてアユに多大なる被害を与えている冷水病の被害軽減を図るため、冷水病に対する抗病性を付与する技術ならびに冷水病ワクチンの開発試験を行った。加温飼育による冷水病の予防治療技術等直接実用化が可能な成果については、県内の養殖業者等への巡回指導を通じて、適時技術指導を行った。加温処理が種苗性に悪影響を及ぼすかどうか、アユのナワバリ性、飛び跳ね性、成群性等の試験を行った。
琵琶湖生態系修復総合対策研究費 ・生物多様性モニタリング調査 ・環境保全型栽培技術効率化研究 ・沿岸帯の魚貝類生産機能修復再生研究 ・栽培対象魚の遺伝的多様性研究 ・アユ資源調査の精度向上対策研究	外来魚駆除効果の評価を行うため、捕獲された外来魚の体長組成をもとに疑似コホート解析により生息量を試算した。また、赤野井湾の浚渫・覆砂による底質改良水域における効果を継続して把握するため、水底質、魚類、泥堆積と水草繁茂の状況を調査した。 琵琶湖固有種のエイトコナマズの効率的な種苗生産技術を開発するため、親魚養成および種苗生産試験を実施した。 ホンモロコシの生息量が減少しており、その原因解明や影響評価のための調査を行った。また、産卵期の水位低下による卵の干出対策として、水位変動に対応可能な産卵基体の試作とその効果調査を行った。 ホンモロコシの遺伝的多様性についてミトコンドリア DNA 調節領域（およびシトクローム b）を用いて解析に取り組んだ。 近年の異常な気象現象によるアユ資源への影響の有無を的確に把握するため、恒常的に実施しているアユ資源調査の精度向上を目指した調査研究を実施した。
琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究	近年の漁場環境は、漁網の汚れ、プランクトンの異常繁殖、水草の増加等著しい変化が生じており、漁場環境の実態を把握とその変動原因の解明に努めた。
漁況予報調査研究	アユの資源水準を的確に把握し、精度の高い漁況予報を行うため、魚探調査、漁獲状況調査、成育調査、産卵調査、ヒウオ生息量調査等を実施した。各調査結果は、すみやかにホームページに掲載すると共に、関係機関・漁業団体に提供した。
漁場環境調査研究	琵琶湖定点定期観測により漁場環境の動向を定期的に把握するとともに、主要漁場（琵琶湖、内湖、河川）や養殖場等における突発的な魚介類の異常斃死事故等について関係機関と協力して、調査および試験を実施し事故原因の究明に努めた。
特産マス類資源の保全と活用に関する調査・研究	本県の特徴を活かしたマス類漁業・養殖業の振興を図るため、在来マス類資源の増殖や、生息環境の評価・管理およびビワマスを用いた地域特産養殖業の開拓に関する研究を実施した。
栽培漁業総合推進事業費＊	琵琶湖漁業にとって重要水産資源であるニゴロブナ、ホンモロコシおよびセタシジミの資源量を維持しつつ継続的かつ効率的な漁獲と、漁業者による自主管理を推進するための基礎資料の収集として調査研究を行った。
オオクチバス等外来魚撲滅対策研究＊	近年の琵琶湖では外来魚が繁殖し、水産資源を食害し、生態系の攪乱原因となっている。新たに国庫委託を受けて、主にオオクチバスの効率的繁殖抑制、捕獲技術開発及び外来魚生息状況把握技術の検討を行った。
湖辺のにぎわい復活事業＊	漁場の再生と維持を両立させる新技術の実証を図るため、貝曳漁具型耕耘器と昨年度開発した回転羽根式耕耘器を用いて湖底耕耘を実施し、その効果確認のため水草採集、水底質、ORP（酸化還元電位）調査の定点を設けてモニタリング調査を実施した。また、2周波（200kHz および 50kHz）のGPS魚探を使って試験区全域における水草群落分布の音響データを収集、解析した。また、ヤナギ、マコモの植栽の追跡調査および周辺水田育成ニゴロブナの試験区利用状況調査を実施するとともに、ワタカ種苗の標識放流と併せて、過年度に西の湖へ放流したワタカの放流効果を把握するため、西の湖や琵琶湖での調査を実施した。コイ、ワタカによる沈水植物の繁茂抑制および底質改善効果を評価するため、天然水域の水草繁茂水域に試験区画を設置して試験を行った。
ホンモロコシ資源緊急回復対策事業＊	減少したホンモロコシ資源を回復させるため、天然水域からの採卵、親魚養成、ふ化仔魚の大量生産・放流による資源回復について実証規模での技術開発に取り組んだ。

注）＊は本課予算